



K O I K E Y A

環境・CSR報告書 2023



1962



イケイケGOGO! 未来へGOGO!

おいしく、たのしく、湖池屋SDGs!

ロングセラーブランド誕生

1962年

のり塩誕生



1967年

量産化に成功



森林保全活動の推進



新生湖池屋の誕生



商品を通じた地域貢献



ブランド芋の魅力を活かした
商品開発



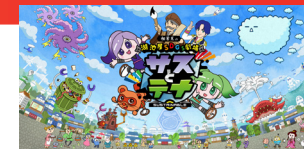
防災スナックの開発



湖池屋初の
九州の生産拠点開業



紙を使ったパッケージ



湖池屋SDGs劇場
「サスとテナ」開幕



湖池屋ポテトチップス誕生
60周年を記念して、フルリニューアル



食でくらしをゆたかに。湖池屋60年の歴史



2023



湖池屋は
「食でくらしをゆたかに。」を
テーマに、
持続可能な社会を目指し、
食を通じたSDGs活動を
推進していきます。



代表取締役会長
小池 孝



代表取締役社長
佐藤 章

K O I K E Y A

● 湖池屋の環境理念

私たち株式会社湖池屋は、独創的で心の満足度の高い商品、サービスを提供するとともに、地球環境、人々の健康、豊かな社会づくりに貢献します。

● 湖池屋の環境行動指針

1. 環境関連法規及びその他の要求事項を遵守するとともに、自主基準を設定し、事業活動に取り組みます。
2. 事業活動による廃棄物の削減及び再資源化、省資源、省エネルギーを推進するとともに、地球環境に負荷を与える物質の削減に取り組みます。
3. 環境に配慮した原料・資材調達、商品開発、生産に努めます。
4. 環境保全のための社会貢献活動に取り組みます。
5. 環境教育を通じ、環境保全に対する意識向上を図るとともに、全社員が環境意識を持って行動します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 持続可能な開発目標 (SDGs)



湖池屋は、国連が2030年までに達成をめざす「持続可能な開発目標 (SDGs)」に賛同し、『食』を通じてSDGsの達成に積極的に貢献します。

湖池屋では、「食でくらしをゆたかに。」という創業者の想いを引き継ぎ、自社製品を通じてSDGs活動を推進することを目標としています。これからも、ずっと先の世代まで様々な人々に美味しさと楽しさをお届けできるよう、豊かな社会づくりに貢献していきます。

環境・CSR報告書について

【対象期間】年間実績データは、2022年度(2022年4月～2023年3月)についての報告書であり、一部対象期間外も含まれています。

【対象範囲】本報告書の対象組織は湖池屋の国内事業となります。湖池屋の海外事業、外部協力工場は除いています。

※本報告書に記載したデータはお断りなく変更する可能性がありますのでご了承ください。

食の安全・安心への取り組み

湖池屋はお客様に安全・安心な商品をお届けするため、食品安全・品質方針に基づき、原材料の調達から製造、流通、販売に至るまでの全ての部門において、安全・安心な商品作りに取り組んでいます。



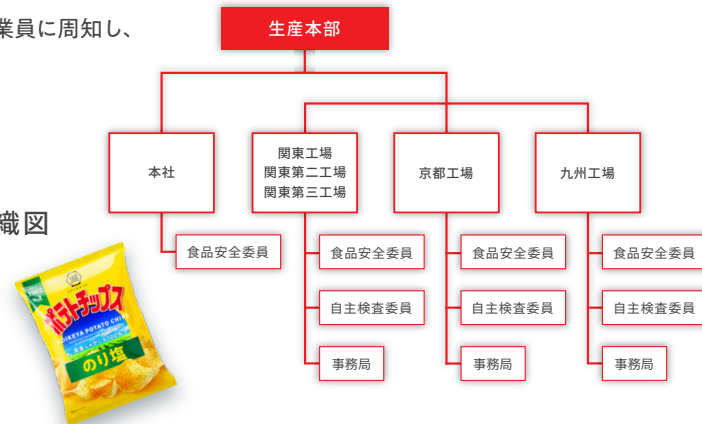
湖池屋 食品安全・品質方針

- I 【お客様志向】 お客様の立場で考え『健康』『おいしい』『楽しい』『満足度の高い』商品・サービスを提供します。
- II 【法令遵守】 法規制、食品安全に関する要求事項を遵守し、信頼していただける商品・サービスを提供します。
- III 【SDGs】 商品づくりの中で地球環境、人々の健康を意識し、社会に貢献します。
- IV 【安全・安心】 食品安全マネジメントシステムを構築し、安全で安心な商品・サービスを提供します。
- V 【コミュニケーション】 社内外のコミュニケーションを充実させ、品質の向上に努めると共に商品情報を的確に提供します。
- VI 【継続的改善】 食品安全目標を設定し取り組むと共に、マネジメントレビューを通じ継続的に改善を行います。
- VII 【教育】 従業員の食品安全に関する技術、知識、経験などの維持・向上のため、継続的な教育・訓練を行います。
- VIII 【啓蒙活動】 食品安全・品質方針を全従業員に周知し、社外にも広く発信します。



KOIKEYA

湖池屋 食品安全委員会組織図



日本産じゃがいも 100%のこだわり

湖池屋は、1962年の「湖池屋ポテトチップスのり塩」発売以来、日本のポテトチップスの老舗として日本産じゃがいも100%にこだわり、60年以上に亘ってポテトチップスを作り続けてきました。じゃがいもは、九州から北海道まで全国各地で栽培されていますが、産地によって収穫時期が異なります。一年を通じて、九州から北海道へと収穫時期を示すラインが北上していく様子は、「じゃがいも前線」と表現されることもあります。高品質のじゃがいもを安定的に確保するため、定期的に産地を訪問し、じゃがいもの生育状況や収穫状況のチェックを実施しています。また、生ものであるじゃがいもを保管するため、受入時に品質検査を実施し、貯蔵に耐えうる品質の選定をすることで、安定した商品を提供し続けられるよう、努めています。これまで培ってきた技術と伝統を継承しながら、日本のポテトチップスをさらに進化させるべく、湖池屋はこれからも新たな挑戦を続けていきます。



※その他の品種も使用しています。



新じゃが収穫前線 (5月中旬～10月中旬)

一年を通じて、南から北にかけて収穫時期が移動します。



日本産のブランド芋の魅力を活かした商品開発

日本では、各地域ごとに様々な品種のじゃがいもが生産され、それぞれの品種が異なる個性と魅力を持っています。湖池屋では、北海道産ブランド芋のおいしさを食べくらべていただくために2019年に誕生した「じゃがいも心地 ブランド芋くらべ」や、北海道今金町で作られる幻のじゃがいも「今金男しゃく」を100%使用した「ポテトチップス今金男しゃく」等、これまで培ってきた技術やノウハウを活用し、ブランド芋の魅力を活かした商品を多数展開しています。



ブランド芋くらべ 北海道JA5社によって洗練されたブランド芋の、味の違いを楽しむことができます。



ポテトチップス今金男しゃく

三方原ポテトチップス

数量限定の希少品種 全国各地の希少品種を用いた製品をオンライン限定で、限られた時期にだけ楽しむことができます。

AIBフードセーフティについて

安全・安心な食品を製造するため、湖池屋では、2008年よりAIBフードセーフティ指導・監査システムに基づいた取り組みを推進しています。

AIB Food Safety System



✓ 清掃活動

[日常清掃の実施]

日勤のラインや交代勤務のライン等、生産終了時には自動洗浄機や温水での洗浄も含め、清掃手順書に基づきしっかりと清掃を行っています。

[定期清掃の実施]

マスタークリーニングスケジュールを作成し、定期的に全工場ラインを停止し本格的な清掃を実施しています。普段、清掃が困難な高所や生産機械の奥まで徹底的に清掃を行っています。



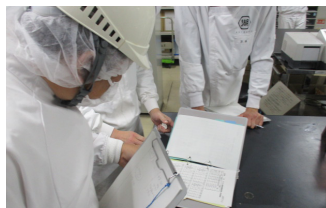
✓ 有害生物の管理

飛翔性昆虫、歩行性昆虫、そ族などの有害生物に対し、毎月のモニタリングおよび週1回の点検から対策を講じ、食品への危害をなくすべく努力を行っています。



✓ 異物混入対策

HACCPの導入により、衛生管理の強化と安全性の確保を行っています。特に設置されている金属検出機を重要管理点とし、より厳しく管理しています。



✓ アレルゲン混入対策

アレルゲン物質が含まれるシーズニング等の原料については、含まれているものとそうでないもの、また、含まれているアレルゲンの種類ごとに分けて管理する等の対策を実施しています。



食品安全の国際認証である「FSSC22000」を取得

株式会社湖池屋 関東工場（第二工場、第三工場含む）及び京都工場において、食品安全の国際認証であるFSSC22000の審査に合格して認証を取得し、現在も維持しています。



FSSC22000
認証

関東

登録事業所

株式会社湖池屋 関東工場、関東第二工場、関東第三工場
(〒347-0063 埼玉県加須市久下1615)

認証番号

4510022

登録範囲

スナック菓子の製造

認証機関

ビューローベリタスジャパン株式会社

FSSC22000
認証

京都

登録事業所

株式会社湖池屋 京都工場
(〒622-0024 京都府南丹市園部町千妻マカリ1-1)

認証番号

4512074

登録範囲

スナック菓子の製造

認証機関

ビューローベリタスジャパン株式会社

FSSC22000は、GFSI（世界食品安全イニシアチブ）が認める食品安全規格の一つです。食品安全マネジメントシステムであるISO22000に、一般的な衛生管理プログラムである前提条件プログラムのTS22002-1と、食品防衛や食品偽装の軽減などが盛り込まれた追加要求事項を加え、構成されています。FSSC22000認証を取得することにより、食品安全マネジメントシステムを構築し、継続的に安全な商品を提供し続ける仕組み作りを目指し、企業理念にもある「常に安心できる商品を提供し、地球環境、人々の健康、社会貢献を心掛ける」を推進して参ります。

商品を通じたSDGs活動

湖池屋は、豊かな社会の実現とその持続に貢献するため、協賛会社として運動に参加しているベルマーク教育助成運動をはじめ、様々なお菓子を通じた社会貢献活動に取り組んでいます。



国連WFP協会への協力

湖池屋は「食」に携わる会社として、飢餓のない世界を目指すという国連WFP協会の理念に賛同し、2012年より継続して協力をしています。国連WFP協会が主催するチャリティーイベントへの参加や、商品を通じた寄付の実施等、様々な取り組みを行っています。



© Mayumi Rui

【レッドカップキャンペーン】

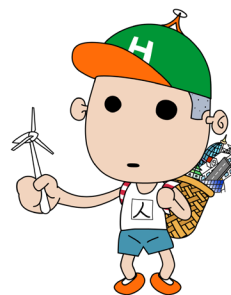
「レッドカップキャンペーン」とは、国連WFP協会が取り組む途上国の子どもへの学校給食支援に、毎日のお買い物で参加することができるキャンペーンです。湖池屋はこの取り組みに賛同し、「ポテトチップスのり塩 5個パック」の売上の一部を国連WFP協会に寄付しています。



ポテトチップス のり塩 5個パック

【ウォーク・ザ・ワールド】

WFPウォーク・ザ・ワールドは、途上国の子どもたちの飢餓をなくすために、国連WFP協会が開催するチャリティーウォークです。湖池屋は、社員同士の親睦や健康促進も兼ねて、毎年当イベントに参加しています。



ベルマーク教育助成運動

湖池屋は、お菓子を通じて広く教育に貢献するため、教育助成運動であるベルマーク運動に賛同し、1977年から45年以上に亘り協賛会社として運動に参加しています。一部商品にはキャラクターデザインのベルマークを掲載する等、湖池屋商品に親しみを感じ、楽しみながらベルマークを集めていただけるような工夫も施しています。

湖池屋の商品に付いているベルマークの例



累計寄付金額

約3億5,880万円



多くのお客様からのご要望を受け、ベルマークの位置を変更しました。



バイオマスマーク

湖池屋では、パッケージのインキの一部に植物由来の原料を配合したものをを用いた製品があります。該当製品には、パッケージの裏に生物由来の資源（バイオマス）を活用し、品質及び安全性が関連する法規、基準、規格等に適合している環境商品の目印である、「バイオマスマーク」を表示しています。



紙を使ったパッケージ

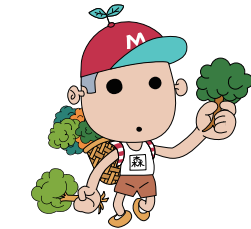
「湖池屋ポテトチップス のり塩」が2022年8月に発売60周年を迎えたことを記念して、湖池屋の原点である「おつまみ」に立ち返し、湖池屋のノウハウを一枚に詰め込んだ特別な商品として、同年9月に「The KOIKEYA」が誕生しました。この商品には、これからの未来に向けた新たなポテトチップスとして、湖池屋初となる「紙」を使用したパッケージを採用しました。そして、60周年記念ブランドとしての役目を終えた今年、定番としてより強いブランドになるべく、「おつまみ」としての価値をより明確にした新ブランド「The 素材のご馳走」へとフルリニューアルしました。今後も減プラスチックをはじめ、環境に配慮した取り組みを実施し、未来へつなげる様々なSDGs活動を展開していきたいと考えています。



ピュアポテトの森を作っています

湖池屋では、環境活動の一環として、2009年から北海道南富良野町の町有林において森林保全活動を実施しています。活動当初は、森林保有しているエリア帯を『湖池屋の森』と名付けていましたが、2023年9月からはじゃがいもの一大産地である“北海道”で生まれたブランド『ピュアポテト』の名前を使用して、『ピュアポテトの森』と改名し、環境への取り組みを強化しています。

【名称】ピュアポテトの森
【場所】南富良野町(町有林)
【面積】1.82ha
【契約期間】平成22年8月9日～令和6年12月31日



防災スナックの開発

日常から食べ慣れた安心感のあるポテトチップスの味わいと、暮らしの中に違和感なくフィットするデザインにより、機能面だけでなく「ほっとする時間」という情緒面の価値を災害備蓄用の食の選択肢の一つとして加えたいとの想いから、湖池屋は5年保存ができるポテトチップス「KOIKEYA LONG LIFE SNACK」を開発しました。“暮らしになじむ、新しい防災食の形”として評価され、一般社団法人 防災安全協会が主催する「災害食大賞©2022」の「パッケージデザイン賞」、「災害食大賞©2023」の「缶詰部門最優秀賞」を受賞しました。また、学校や自治体と協定を結び、防災意識向上のための取り組みの一つとして、当商品の寄付等も行っています。

5年
保存



災害食大賞©2022「パッケージデザイン賞」
災害食大賞©2023「缶詰部門最優秀賞」受賞

湖池屋 SDGs 劇場「サスとテナ」

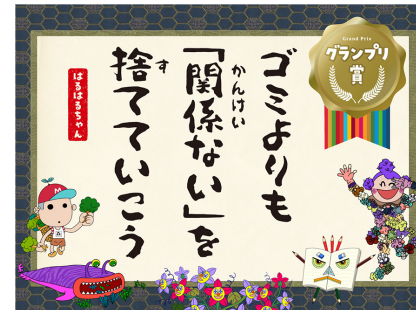
子どもから大人まで世代を超えてSDGsに対する関心が広がる中、SDGsを複雑で難しいものとして捉えるのではなく、身近なものとして、楽しみながら取り組んでいただきたいとの想いから、SDGsをテーマにしたアニメーション 湖池屋SDGs劇場「サスとテナ」を制作しました。社会課題や環境問題を反映した“SDGs怪獣”を前に奮闘する双子のクノイチ“サス”と“テナ”、そしてロボットの“ブル”が繰り広げるストーリーを楽しみながら、SDGsに対する理解を深めていただけるような内容になっています。



「SDGs 怪獣・SDGs 川柳大募集キャンペーン」の実施

より身近に、より楽しくSDGsの問題について考えていただく機会として、当アニメに登場する“SDGs怪獣”や“SDGs川柳”をオリジナルで考え、ご応募していただくキャンペーンを実施しました。その中でも、「SDGs怪獣大募集キャンペーン」で優秀作に選ばれた作品の一つの「サバグン」は、実際にアニメ化され、砂漠化をテーマにしたシーズン4 / 第1話でSDGs怪獣として登場しました。

SDGs 川柳大募集キャンペーン グランプリ賞



作：はるはるちゃん

SDGs 怪獣大募集キャンペーン 優秀賞



作：リクリクさん

※優秀賞 7 作品の内の 1 つです

地域の方々との取り組み

湖池屋はお客様の日々の暮らしに寄り添い、地域の方々を巻き込みながら、社会・地域に貢献できる活動を積極的に展開していきます。



湖池屋 × 女子バスケットボール

社会・地域貢献活動を広げていきたいと考えていた湖池屋と、スポーツを通じた社会・地域貢献に取り組む東京羽田ヴィッキーズの想いが重なり、2021年10月より東京羽田ヴィッキーズの活動を応援しています。



また、協賛だけでなく、日本を代表するアスリートと子どもたちをつなぐ機会を作り、子どもたちの未来を応援することで地元・板橋区に貢献したいとの思いから、元バスケットボール女子日本代表の中川聡乃さん、東京羽田ヴィッキーズの協力のもと、地元・板橋区の小学生を対象としたバスケットボール教室等も実施しています。



湖池屋 × 板橋区

板橋区に本社を構える企業の一つとして、高島平警察署や志村消防署といった行政と連携した取り組みの実施や、板橋区が実施する地域イベントへの協賛等、地域貢献活動を推進しています。



「ヒーおばあちゃん(右)」が志村消防署の一日消防署長に就任



高島平警察署と連携し、地域の防犯・交通安全キャンペーンを実施

湖池屋初の九州の生産拠点「九州阿蘇工場」稼働

2021年8月に、湖池屋にとって九州初の生産拠点となる「九州阿蘇工場」が開業しました。



熊本県の地域復興

九州阿蘇工場の所在地である益城町は、熊本地震で被害のあった地域になりますが、新工場を稼働することにより雇用を生み出し、そこで商品を生産していくことで、地域の復興・活性化につなげていきたいと考えています。地域の方々を巻き込みながら、自然災害への対策、地域の素材を活かした新商品開発、原料の開発等にも取り組み、熊本県をはじめ九州の皆様を笑顔にする様々な取り組みを展開していきます。



「九州カラムーチョ 甘辛チリトマト味」と「九州すっぱムーチョ 九州柑橘&ビネガー」



湖池屋 GOGO!ファクトリー



湖池屋GOGO!ファクトリー九州阿蘇工場の稼働にあわせ、熊本県をはじめ、全国の皆様に笑顔をお届けする取り組みの一つとして、湖池屋の歴史と創業以来のこだわりを体感いただきながら、オリジナルポテトチップス作りを体験することができる「湖池屋GOGO!ファクトリー」を併設しました。地元・熊本県ならではの素材を含めた8種類のフレーバーを組み合わせた味付けや、ご自身でデザインを書き込んで行うパッケージ製作等、世界に1つだけのオリジナルポテトチップス作りをお楽しみいただけます。



マイポテチ作り体験





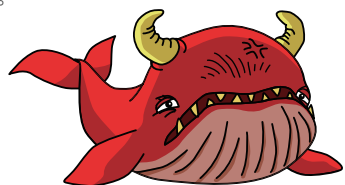
JAPAN PRIDE プロジェクト

「日本の誇り」である風土・文化やそれらが生み出す素材を「湖池屋プライドポテト」に込めて発信するプロジェクトとして、2018年2月に「湖池屋JAPAN PRIDE プロジェクト」が始動しました。

2018年5月の“宗像”に始まり、2019年6月の“小豆島”、2020年8月の“神戸”、2020年9月の“金沢”、2021年8月の“熊本”、2023年7月の“京都”と展開し、“地域の素材を活かしたポテトチップス”という領域を超えて、地域とともに、地域の抱えるテーマに向けて、商品を通じた貢献に取り組んでいます。

◆「Save the Sea」活動を推進

宗像の海をはじめとする豊かな自然を守る「Save the Sea」活動を地域の皆様とともに推進するべく、宗像市地島での海岸清掃活動に協力しています。



◆ 金沢パッケージ総選挙

金沢美術工芸大学の学生が考案したデザインの中から、一般投票により新商品のパッケージを決定する『プライドポテト JAPAN 金沢総選挙』を実施しました。

金沢美術工芸大学の学生たちがデザインで表現した“金沢”を湖池屋だけで選ぶのではなく、金沢市の方々と始め、金沢への想いのある全国の方々と一緒に選ぶことで、改めて“金沢”の魅力に気づき、新たな“金沢”の魅力を全国へと広げていきたいと考えています。



入賞
作品



『プライドポテト JAPAN 金沢総選挙』で選ばれた、金沢美術工芸大学 視覚デザイン専攻 北恭輔さんが作成された「金沢に舌鼓」(左)と、金沢美術工芸大学 視覚デザイン専攻 江川依吹さんが作成された「金沢漆器」(右)

地域ごとの取り組み

宗像



- ・海的环境保全
- ・自然遺産の保護
- ・世界遺産の認知拡大



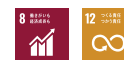
小豆島



- ・オリーブ認知拡大
- ・観光客誘致



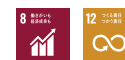
熊本



- ・熊本の産品販促
- ・九州ブランド芋の拡大
- ・地元農家の応援
- ・雇用創出（九州阿蘇工場）



神戸



- ・畜産農家の応援
- ・日本ブランドの継承



京都



- ・府内農林水産物の消費拡大を支援
- ・伝統文化財の保全を支援



金沢



- ・金沢の伝統文化と現代アートの振興
- ・学生の職業的スキルの向上



環境への取り組み

湖池屋は、環境保全を意識した企業活動に取り組んでいます。

持続可能な自然環境の保全のため、省エネルギー、省資源、廃棄物削減、容器包装改善など、様々な取り組みによって環境負荷の低減に努めています。



CO₂ 排出量の削減(省エネ活動)

生産部門	中期目標	具体策 2018 年～2022 年度
関東工場 関東第二工場 関東第三工場	埼玉県目標設定型排出量取引制度に基づき、第一計画期間(平成23～26年度)において6%削減、第二計画期間(平成27～令和元年度)において13%削減、第三計画期(令和2～6年度)において20%削減を達成する。	- ボイラー・蒸気配管等、発熱設備表面の断熱強化 - 照明のLED化 - スチームトラップ診断及更新 - 温排水の熱交換利用 - ガスコージェネレーションシステムの導入による消費エネルギー削減 - 省エネ型空調機更新
京都工場	地球温暖化防止条例に基づき、第一計画期(平成23～25年度)、第二計画期(平成26～28年度)、第三計画期(平成29～令和元年度)、第四計画期(令和2～4年度)の其々の計画期において前計画期平均比2%の削減を達成する。	
九州阿蘇工場	令和5～7年度の平均値において、令和4年度実績比の2%削減を達成する。	

廃棄物の発生抑制とリサイクル

生産部門	中期目標	具体策
関東工場 関東第二工場 関東第三工場 京都工場 九州阿蘇工場	廃棄物の発生抑制	- 生産ロスの削減 - 返品品の削減



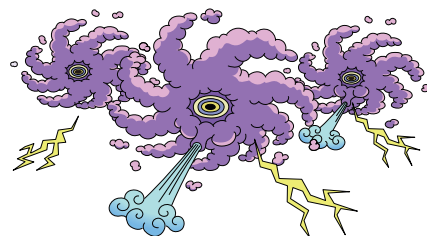
配管保温の強化



蒸気配管の断熱

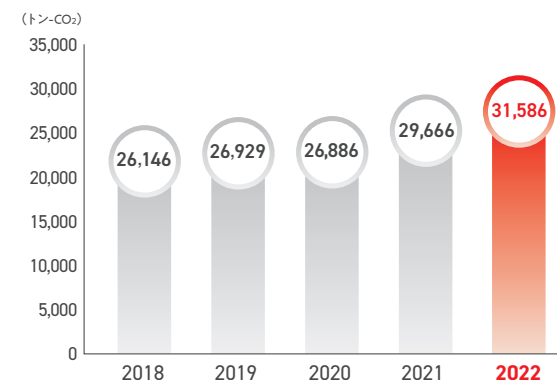


事務所廊下照明のLED化



CO₂ 排出量

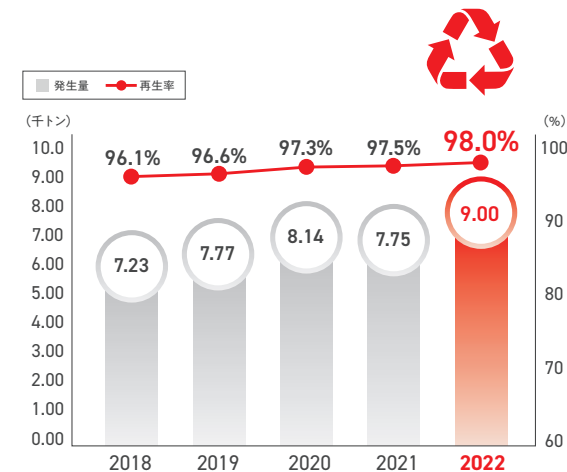
湖池屋の各工場及び事業所においては、エネルギーの効率的利用に取り組み、CO₂排出量の削減に努めています。ここ数年は、九州阿蘇工場の稼働開始や生産状況の変化が影響し、CO₂排出量が上昇していますが、省エネ設備機器の段階的導入、工場各所及び事業所各所において省エネ対策を進めることで、今後も継続して可能な限りのCO₂排出量削減に取り組んでいきます。



CO₂ 排出量

廃棄物の発生量とリサイクル

湖池屋の各工場では、どうしてもリサイクルすることのできない石等を除き、発生した食品廃棄物等のリサイクルを努めています。生産量の増加により廃棄物の発生量は増加傾向にありますが、再生率は年々上昇し、2022年度は98.0%と高水準を維持しています。



廃棄物の発生量と再生率

〈関東工場、関東第二工場、関東第三工場、京都工場、九州阿蘇工場〉

省エネ設備機器の導入によるCO₂の削減

湖池屋では、地球温暖化の原因であるCO₂排出量削減のために、灯油から都市ガス・天然ガスへ転換しました。また、各工場にガスコージェネレーションシステム(自家発電設備)を導入しました。今後も省エネルギー設備の導入を計画的に進めていきます。



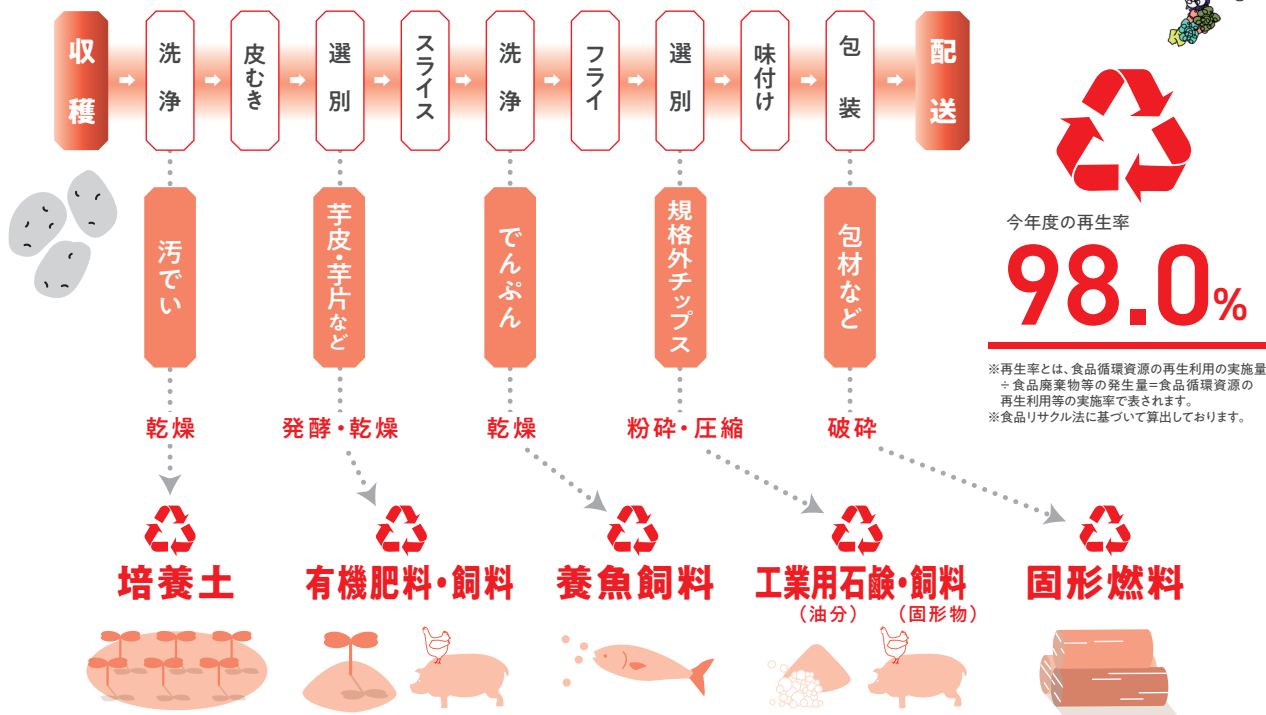
液化窒素タンク



ガスコージェネレーション

ポテトチップスができるまでとリサイクル

ポテトチップスができるまでには、いろいろな廃棄物が発生します。
食品廃棄物や中間生成物は、可能な限り再生利用に取り組んでいます。



じゃがいもを選別する工程



スライスしたじゃがいもの洗浄



ポテトチップスの選別



ポテトチップスの味付け



湖池屋マテリアルフロー (※委託先除く)



製品販売数※1 **6.45** 億袋



営業販売
関連

【燃料使用量】 ガソリン 144 kℓ ▶ 【CO₂排出量】 344t-CO₂



物流・配送※2
関連

【燃料使用量】 軽油 1,532 kℓ ▶ 【CO₂排出量】 3,960t-CO₂

INPUT (原材料)

容器包装材料	包装フィルム	3,744	t
	紙類	13,004	t
エネルギー使用	電気	21,331	千kWh
	LPG	754	t
	LNG	2,894	t
	灯油	8	kℓ
	都市ガス(13A)	5,816	千m ³
水の利用	水道	10,524	m ³
	井水	737,629	m ³

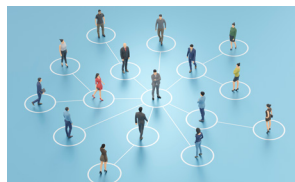
OUTPUT (廃棄物)

食物残渣(芋皮・屑等)	7,663	t
包装用フィルム等	424	t
【中間生成物】でんぷん	1,185	t
【CO ₂ 排出量】CO ₂	31,580	t-CO ₂
【水系排出量】公共下水※3	747,926	m ³

※1 製品販売数…生産総重量をレギュラー袋重量(60g)で換算し、推計したものです。
※2 物流・配送…物流は全体給油量から燃費量の平均値を算出して工場から配送センターまでの
走行距離、走行回数、車種で計算したもので、実測値ではありません。
※3 水系排出量…汚でい量や最終製品の出来高などから推定したものです。

従業員との関わり

湖池屋は、「おいしさ」と「楽しさ」を提供するため、社員の自主性を尊重し、各自の個性や能力を活かしながら、チームでワクワクとやりがいをもって働ける職場環境作りを目指しています。



01 ダイバーシティ

湖池屋では、年齢・性別・能力・価値観等にとらわれず、多種多様な社員一人ひとりの個性を活かし、イノベーションを生み出す組織を構築できるよう、様々な取り組みを行っています。



採用

国内の総合職採用の他に、地域限定社員の採用や定年退職者の再雇用、海外法人における現地人材の採用など、多様な人材の登用を進めています。また近年では、海外現地法人との人材交流や、技能実習生・特定技能外国人の採用などを行い、社内のグローバル化に着手しています。



副業

湖池屋では、個人のスキルアップやキャリア形成、豊かな創造性を養うことを目的とし、社員の副業を推奨しています。社員の自律性・自主性を促すとともに、社内では得られない知識やスキルを獲得することで、社員の能力開発およびイノベーション推進につながると考えています。



人財育成

年功序列を廃し、年齢や経験を問わず誰でもチャレンジできる人事制度を導入しています。湖池屋では成果だけではなく、チャレンジする姿勢を評価する評価制度をとっており、各個人の主体的な挑戦を後押ししています。毎年、チャレンジが認められた社員は年間MVPとして表彰されます。また人の育成においては、それぞれの職域に応じた研修に加え、管理職には360度サーベイ、中堅・若手には定期的なジョブローテーションとプロジェクトのアサインを行い、常に成長を促す場を設けています。さらに、部署を超えて社員同士が交流できる場として「ナナメの1on1ミーティング制度」を導入しており、普段の業務では得られない対話の中から気づきを促し、成長を加速させる体制も構築しています。

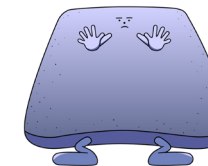


キャリア選択

営業職や企画・開発職、製造職、事務職など、湖池屋では部門を超えて様々な職種を経験することができ、個人の希望や適性、会社のニーズに合わせ、一人ひとりに応じたキャリア構築を行います。また、仕事の責任を果たす一方で、育児・介護等、個人の時間の充実を実現するため、ライフイベントに応じて、総合職から地域限定職への転換やスペシャリストとしてのキャリア構築など、柔軟にキャリア選択をすることが可能です。湖池屋で長く働くうえで、ライフイベントと仕事を両立させるための体制を整えています。

02 ワークライフバランス

湖池屋では、ワークライフバランスの調和と業務効率の向上を目的とし、社員一人ひとりの生活スタイルに応じて多様な働き方を選択できるよう、2018年から働き方・業務改革プロジェクトを実施しています。



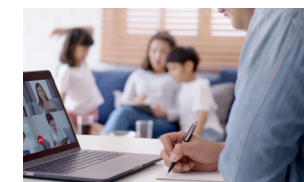
カジュアルデー

心地よく働ける職場づくりや、社員間のコミュニケーションの活性化を目的に、カジュアルデーを実施しています。



フリーアドレス

本社や一部の支店でフリーアドレスを導入しています。部門間の隔たりをなくし、オフィス内の各種ニーズに合わせた空間の使い方ができるよう、開放感のある業務環境の構築を進めています。



テレワーク・フレックス制度※

湖池屋では、テレワークやフレックス制度を導入しています。働く場所や時間を自由に選択できる環境を整えることで、育児と仕事の両立や通勤時間の有効活用など、様々な面で業務の効率化をサポートしています。

※製造職を除く

03 教育研修制度

湖池屋では、それぞれの職域に応じた研修の実施や、社員が自律的に学べるeラーニング・通信教育講座の導入により、社員の成長や活躍を支援するための体制を構築しています。

職位別研修

入社時	● 新入社員研修 ● 新入社員フォロー研修 ● 中途入社社員研修
若手向け	● 思考力強化研修 ● 動機づけ研修
管理職向け	● 人事戦略、人材マネジメント研修 ● 会計の知識研修
全社員向け	● 自己啓発奨励制度 ● 通信教育 ● eラーニング ● コンプライアンス研修

職種別研修

営業部門	● 営業マネジメント研修 ● 営業力強化研修 ● 営業力提案力強化講座
企画・開発部門	● マーケティング研修 ● メタマーケティング養成ワークショップ
生産部門	● 製造強化研修

04 福利厚生制度

湖池屋では仕事とプライベートの両立を図る各種福利厚生制度があります。



出産・育児関連制度

産前・産後休暇はもちろんのこと、育児休暇やこども休暇の取得が可能です。その他、子の看護休暇制度があります。復職後は時短勤務ができ、前年度の取得率・復職率は100%です。近年では、男性の休暇取得を推進しています。

休暇

完全週休二日制。有給休暇に加え、夏季・年末年始休暇、慶弔休暇、介護休暇、引っ越し休暇などがあります。また社員の有休取得を促進するため、有休取得推奨日を設定しています。

手当

就業面においては、通勤手当や寮・社宅制度、異動時の赴任時一時金などがあります。また、社員のチャレンジに対して、高評価取得者には評価手当があり、自律的能力開発者には自己啓発奨励制度として、資格試験や語学検定などの費用補助を行っています。他にも工場勤務の社員は、交替勤務手当や特殊技能手当などがあります。

健康施策

毎年の健康診断の実施や人間ドックの費用補助を行っています。また、湖池屋本社や工場にある「社員食堂」では、低価格でバランスの取れた食事を取ることができます。その他にも、「心の健康づくり計画」のもと、健康相談窓口を設置しており、社内での悩み・課題の相談に限らず、仕事への向き合い方や自分の強みや弱みの見つけ方、プライベートのことなど、幅広く相談できる窓口があります。

その他の制度

・ベネフィットステーション ・従業員持株制度 ・確定拠出年金 etc.

ETC

湖池屋の活動状況

従業員数 945名（2023年3月31日現在）

資本金 2,269百万円

連結売上高 44,574百万円（2023年3月期）

工場拠点 関東工場 関東第二工場 関東第三工場
京都工場 九州阿蘇工場
シレラ富良野（JAふらの業務委託）



株式会社湖池屋

湖池屋本社 〒175-0094
東京都板橋区成増五丁目9番7号

原宿本社 〒150-0001
東京都渋谷区神宮前六丁目17番11号
JPR原宿ビル8階

